

WHO ファクトシート

サル痘

Monkeypox

2018年6月6日

重要な事実

- ・サル痘は、主として熱帯雨林に近い中央アフリカや西アフリカの遠隔地で発生する珍しいウイルス性の人獣共通疾病である。
- ・サル痘ウイルスは、1980年に根絶された疾病であるヒトの天然痘に類似している。サル痘は天然痘よりはるかに軽度ではあるものの、死に至ることもある。
- ・サル痘ウイルスは、主として、げっ歯類や霊長類などの様々な野生動物から人々に伝播するが、限定的にはヒト-ヒト感染によっても感染拡大する。
- ・典型的には、サル痘流行時の死亡率は1%から10%であり、その死亡のほとんどは若い年齢層で起こっていた。
- ・以前行われていた天然痘のワクチン接種はサル痘の予防においても有効性が高かったが、サル痘そのものに対する有効な特異的治療法やワクチンは存在しない。

本件ファクトシートについて、厚生労働省検疫所ホームページの[こちら](#)では全文の日本語訳が公開されていますので、ご参照下さい（改定前）

© World Health Organization

この文章は、日本WHO協会がWHOのメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014年3月にWHO本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含めWHOホームページでの原文をご確認ください。

Monkeypox

ファクトシート原文は [こちら](#)